

Karibu Kenya!

☆JICA 海外協力隊　ケニア通信 No.7☆　2026年10月11日　発行者:夏目佳代子

Habari gani?（ハバリ ガニ？）お元気ですか？　こう聞かれたら、Nzuri.（ンズリ）「元気です。」と答えます。体調があまりよくなくても、こう答えるのがスワヒリ語のあいさつだそうです！



アパートの前に大きな木があり、９月の中旬くらいからきれいな紫の花が咲いています。ジャカランダという花で、日本では紫雲木（シウンボク）といい、世界の三大花木とも言われるそうです。その名の通り、うすむらさき色の雲のような感じです。この時期がちょうど見頃で、町を歩くと、あちこちでジャカランダの木を見かけます。一つひとつの花はラッパのような形をしています。ある日、夕日が沈む頃、空がピンク色になりました。ジャカランダの花の色と合ってとてもきれいでした。





☆アパートからの景色

☆キリギティ女子更生学校とは

私が活動する「キリギティ女子更生学校」は、ケニア国内に２か所ある女子専用の更生施設で、日本の少年院にあたります。英語では、「Kirigiti Girl's Reception and Rehabilitation School キリギティ・ガールズ・レセプション＆リハビリテーション・スクール」、略して「リハブ」と呼ばれています。ここには、窃盗などの犯罪や素行不良などで警察に逮捕・補導され、裁判所により更生が必要であると判断された 13～18 歳の女の子たちがいます。警察に逮捕・補導されると、リマンド・ホーム（児童拘置所）に収容され、裁判所の判決や身元調査が完了するまで一時拘置されます。そして、裁判所により更生学校に送られることが決定された子どもは、レセプション・センター（受理分類センター）に３か月ほど滞在し、その間に学力や再犯リスクなどの評価査定が行われます。そして、再犯リスクが高いと判断された子は、キリギティ女子更生学校に送られ、最長３年収容されます。そして社会復帰や更生を目指し、初等教育および職業訓練を受けます。



☆更生学校の正門

更生学校には、現在３０人前後の女の子たちがいます。「前後」、というのは、頻繁に出入りがあるためです。９月の１ヶ月間だけでも、６人の女の子がケニア各地から送られてきました。朝行ったら、初めて見る子がいる、という感じです。犯罪をしたと聞くと、どんな子たちだろうと思いますが、みんなとても元気で人懐っこく、本当に犯罪をしたのかなと思うほどです。しかし、ここにくるまでの一人ひとりの背景には、貧困や虐待、育児放棄など複雑な状況があり、困難な環境で育った子たちばかりです。活動はまだまだ手探りですが、まずは一人ひとりのことをよく理解して、信頼関係を築くことを大切にしたいと思います。名前を覚えたいと思っても、３０人もの子たちの名前を一気に覚えるのは難しかったですが、みんな「カヨーコー！！（ヨにアクセント）」と話しかけてくれるので、自然に覚えられました。英語を流暢に話せる子はあまりおらず、みんなお互いスワヒリ語で話しています。また、同じ部族の子同士は、それぞれの部族の言葉でも話しています。私のスワヒリ語はまだまだなので、子どもたちとは、簡単な英語と、たどたどしいスワヒリ語で話しています。子どもたちが、「これはスワヒリ語でこうやって言うんだよ。言ってみて！」と教えてくれます。



☆教室と寝起きする部屋

他の町にあるいくつかのリマンド・ホームや、一時保護施設でも、青少年活動隊員が活動しています。送られてきた子の中には、「〇〇（隊員の名前）知ってる？」と聞いてくる子もいます。これからの通信で、更生学校での子どもたちの生活や、活動についてお伝えしていきます。

☆ようやくテーブルとイスができました！



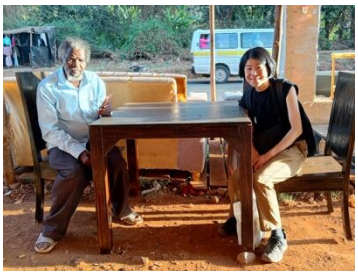
☆真ん中がジョセフさんの店

前回の通信でお伝えしていたテーブルとイス、１週間ほど待って、完成予定日に電話を受けてお店に行くと、テーブルと思われるものは見当たりません・・フンディ（職人さん）のジョセフさんに聞くと、これから色を塗るということ。その前に、どの色がいいか私に確認しようと思った、とのことでした。電話ではできたと言っていたけど？？？　まあ、確認してくれるのはありがたいか、と思ってベッドと同じこげ茶色をお願いしました。今思うと、テーブルはできたけれど色塗りはこれから、ということだったのかもしれません・・次の日、連絡が来たので行ってみると、私のものと思われるテーブルが外にありました。でも、完成したのかな・・まだ木肌そのままで、色は塗られていません。そして、イスは見当たりません・・案の定、「これから色を塗る。」とのことでした。「I'm sorry. I'm tired.」えーー！！疲れてできないって・・「この塗料を買ってきて時間がかかったんだ。」と塗料を見せてくれました。「連絡が来たからできたと思って来たんだけど・・本当は昨日できているはずだったし、テーブルがないと困るんです！」と、何度も、翌日までに完成させてほしいと伝えました。そのまた次の日、活動後にお店に行くと、（お店は更生学校の斜め向かいです。）おお！ちゃんと色が塗られている！！これで完成かと思ったら、「仕上げの塗料をこれから塗るんだ。」とのこと。えー！まだなの！？「３回塗るんだよ。これから仕上げの３回目を塗るから、今日中には完成する。」とのこと。「これは塗ったらすぐ乾くから。」と言われたけど、もう夕方だし、本当に乾くのかな・・家に帰って待っていると、１時間くらいしてちゃんと連絡がきました。こんなに早くできるなんて！！びっくりです。お店に行ってみると、先ほどよりツヤがでています。でも、まだ乾き切っていません。しょうがないので、もう１日待つことにしました。翌朝、活動前にお店に寄ってみると、ジョセフさんは、息子さんと一緒にテーブルとイスを日が当たるところに出していました。これなら夕方には乾くかな。活動後にお店に向かいました。背もたれの部分の塗料がまだ少し手につく感じでしたが、座面は乾いていたので、アパートに運んでもらうようにお願いしました。ベッドの時と同じように、ピキピキ（スワヒリ語でバイクのことです）に乗せます。テーブルだけでなく、イスも２脚、ちゃんと乗せてしまうのがすごいです。夕日に向かってピキピキが走っていくのを追いかけました。













そして、運転手さんとテーブルとイスを４階の部屋まで運びました。何もなかった部屋が、ようやく部屋らしくなりました。テーブルはちょっとがたつきましたが、脚に段ボールをはさんで水平になりました。スーツケースとヨガマットにも慣れてしまうくらいでしたが、テーブルがあるとやはりいろんなことがはかどります。できあがるまで、日々やきもきしていましたが、ジョセフさんはお店に行くといつも、「注文してくれてありがとう。」と言ってくださり、家に運んだ後も、「塗料は乾いたかい？」「調子はどう？」と電話をかけてくれました。大切に使っていこうと思います。

更生学校のスタッフは、「ケニアのフンディで、ちゃんと期限を守るのは美容師だけだよ。自分が美容院に行ってそこで髪の毛を編んでもらったり切ってもらったりして、できたら帰るから遅れることがないでしょ。」と言っていました。確かに！もちろん期日を守るフンディもいると思いますが、いろいろポレポレなので、何か注文するときは、時間にたっぷり余裕をもってするのがよさそうです。

それではまた！　Tutaonana!